

**史跡脇本城跡**

**案内人**

一緒に城跡を歩いてみませんか。  
案内料は「無料」です。  
事前にお申込みください。

土日の案内も  
行っています

男鹿市教育委員会 文化財班  
**0185-24-9103**  
受付 月曜～金曜 午前8:30～午後5:15  
脇本城跡案内人 検索

あんどうちかすえ  
ワシの名前は安東愛季。  
脇本城はワシの居城としても  
ともあった城を作り直して住  
んでいたのじゃ。しばらく見な  
い内に建物は残っておらん  
が、やはりここからの景色は絶  
景じゃのう。

このパンフレットでは内館地  
区を中心に紹介したが、脇本  
城はとてつとて広大でとても全てを  
紹介できなかった。「史跡脇  
本城跡案内人」という者達が  
おるので、もっと知りたくなっ  
たらこの者達に連絡するとよい。  
また、お主達と脇本城で会  
えることを楽しみにしておるぞ。

**ACCESS MAP**

男鹿市

**鉄道**  
脇本城 徒歩30分 男鹿線40分

**高速道路**  
脇本城 昭和男鹿半島I.C. 25.8km  
秋田南I.C. 盛岡I.C. 56.1km  
横手I.C. 北上I.C. 138.1km  
湯沢I.C. 仙台I.C. 東京

**男鹿半島・大瀧ジオパーク**

日本列島のでき方がわかる地層博物館・男鹿と、日本で2  
番目に大きかった湖・八郎瀧にできた人工の大地・大瀧が  
2011年に認定されました。恐竜がいた7,000万年前から現  
在までの大地の歴史、人の歴史を連続して見ることができる  
日本唯一のジオパークです。

◆関係年表

時代	年号	西暦	事項
中世	元弘4	1334	北条方の勢力、小鹿嶋や秋田城に館を築く。 足利尊氏、室町幕府を開く。(1336)
	康永3	1344	嶋郡地頭安倍兼季、北浦日枝神社を再建。 南北朝の合一成る。(1392)
	康正2	1456	安東政季、小鹿嶋に入り、ついで河北郡 (現在の山本郡)を支配。 応仁の乱始まる。(1467)
	延徳3	1491	秋田湊安東二郎宗季、増川に神社を建立。
	大永4	1524	湊安東知季、椿・双六両村の境を確認。
	天文8	1539	安東愛季が檜山城主舜季と、 湊城主舜季の娘との間に出生したといわれる。 ポルトガル船、種子島漂着[鉄砲伝来](1543)
	永禄5	1562	愛季、浅利則祐を扇田(大館市)の長岡城に 攻める。
	8	1565	愛季、鹿角郡に侵攻。
	元亀元	1570	愛季、湊安東氏をもあわせ、その領地を 支配する。 室町幕府滅ぶ。(1573)
	天正3	1575	愛季、織田信長へ鷹を献上。
4	1576	実季、愛季の二男として檜山城で誕生。	
5	1577	愛季、従五位下に任命される。 愛季、嫡子業季に湊・檜山の両城を譲り、 脇本城を居城とする。	
近世	8	1580	愛季、朝廷から従五位上の地位を与えられ、 侍従に任命される。 実季、湊城主となる。 本能寺の変(1582)
	11	1583	愛季、由利へ侵攻。浅利勝頼を檜山で謀殺。 羽柴秀吉、関白となる。(1585)
	15	1587	愛季、戸沢氏と合戦中に没す。 遺骸は脇本城下の法蔵寺に葬られる。 豊島城主湊通季、実季を湊城に攻撃(湊合戦) 実季は檜山城に籠城し勝利。 脇本城船越川が戦場となる。 豊臣秀吉、全国統一。(1590)
	17	1589	実季、脇本の菅原神社建立。 実季、安東姓から秋田姓を称する。 豊臣秀吉、朝鮮出兵[文禄の役](1592) 豊臣秀吉没(1598)
	19	1591	関ヶ原の戦い。(1600)
	慶長7	1602	実季、宍戸(茨城県)へ移封。 佐竹義宣が秋田に入る。 徳川家康が将軍となり江戸幕府を開く(1603)
	10	1605	佐竹藩士十一人が、脇本横町から 比内十二所に入る。 大坂夏の陣[豊臣氏滅ぶ](1615)
	承応2	1653	菅原神社、現在地へ移転。
	万治2	1659	実季、朝熊で死去。
	文化元	1804	紀行家、菅江真澄が脇本城跡を訪れる。 明治維新(1868)
現代	昭和62	1987	地元有志が「脇本城社懇話会」をつくり、 城の整備に着手。
	平成5	1993	脇本城跡遺構調査を開始。
	7	1995	脇本城跡が市指定文化財となる。(788,626㎡)
	9	1997	脇本城跡が県指定文化財となる。(784,346㎡)
	10	1998	「脇本城跡保存整備指導委員会」が発足。
	12	2000	市指定文化財に追加指定(62,630㎡)
	13	2001	確認調査着手
	16	2004	国指定文化財に指定(1,287,383㎡)
	19	2007	史跡脇本城跡保存管理計画策定 脇本城跡案内人活動開始
	26	2014	史跡脇本城跡整備基本計画策定 指定10周年記念事業

- ゴミはお持ち帰りくださるようお願いします。
- 野草の採取はご遠慮ください。
- 美しい環境を守るためにご協力お願いします。

**男鹿市教育委員会(生涯学習課 文化財班)**  
〒010-0595 秋田県男鹿市船川港船川字泉台66-1  
TEL. 0185-24-9103 FAX. 0185-24-9156  
syougaigakusyu@city.oga.akita.jp



国指定史跡

# 脇本城跡

秋田県男鹿市教育委員会

# 脇本城について

脇本城跡は、男鹿半島南側の脇本地区に位置する中世の城跡です。日本海に突き出すようにそびえる標高100mの丘陵地に位置し、自然地形を巧みに利用しつつ、大規模な造成をして整備した中世・戦国のいわゆる「土づくりの城」です。その築城年代は明らかではありませんが、出土遺物の特徴などから、15世紀にはすでに城として機能していたと考えられます。

石垣や天守をもつ城に比べると見た目は少し地味ですが、築城数百年を経てもなお、当時の面影を偲ばせる遺構の数々は、その残存状況のよさからも当時の土木技術の高さをうかがわせます。

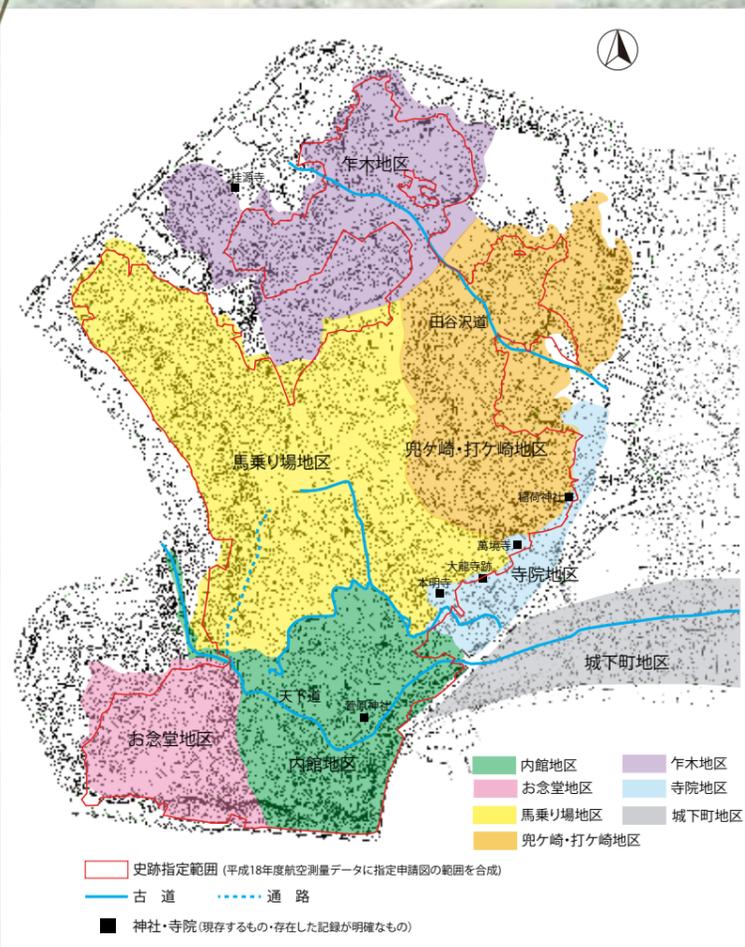
城のある丘陵地の面積は約150ha

(1,500,000㎡)で、秋田県能代市の檜山城、福島県会津美里町の向井羽黒山城、東京八王子市の八王子城など、東日本を代表する城と比較しても勝るとも劣らない規模を誇ります。



※脇本城跡は平成16年に国の史跡指定を受けています。  
※城跡の範囲内は文化財保護法の制限を受けます。

# 脇本城跡全体図・地区区分図

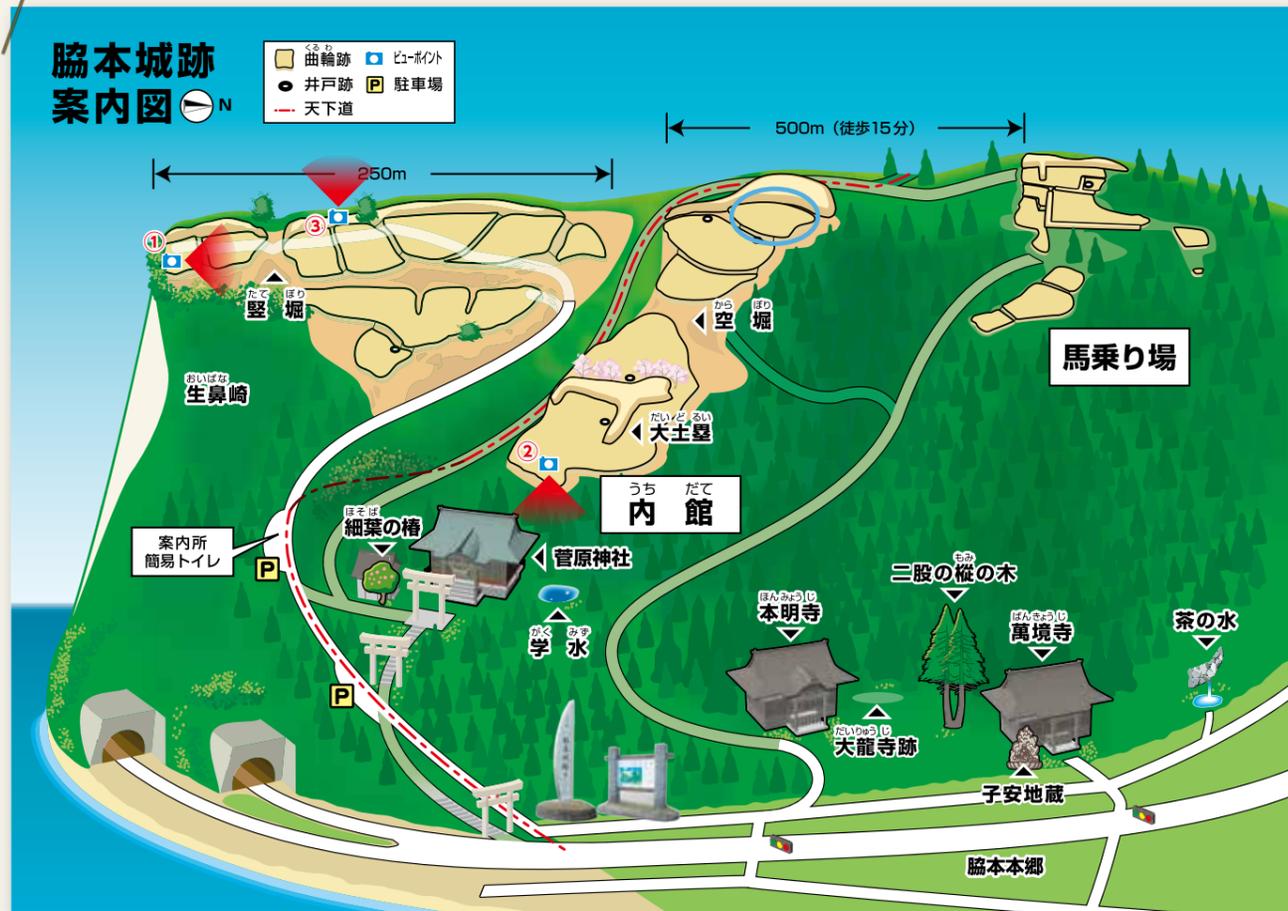


男鹿半島は、中世安東氏の支配下にあったことが市内にある神社や寺院の由来などから知られています。脇本城も安東氏に関係する城館であると考えられ、その城域は非常に広大で丘陵全体に及びます。

遺構の構造や地名等から、比較的小規模な曲輪が並列的に群をなして立地する「内館地区」、単郭の大規模な曲輪を中心とし、周囲に小規模な曲輪が展開する「馬乗り場地区」、小さい尾根の頂上部に小規模な曲輪が位置する「兜ヶ崎・打ヶ崎地区」、中央部を田谷沢道が横断する「作木地区」、内館及び馬乗り場地区の立地する丘陵下に位置する「お念堂地区」と大きく5つの地区に分け、さらに短冊形の地割やカギ型に曲がる道が残る「城下町地区」と現在も寺が多く残る「寺院地区」に分けています。

※「城下町地区」は脇本遺跡として登録されています。

# 脇本城跡の見どころ



脇本城の廃城時期は明らかにされていませんが、江戸時代の初頭には廃城になっていたと考えられています。その後、大規模な開発等が行われなかったことや、地域の人たちによる環境整備が継続的に行われてきたため、内館地区では脇本城跡が「脇本城」であった当時の様子が良く残されています。

刀を模した国指定史跡脇本城跡の看板から菅原神社や案内所を見ながら登ることおよそ15分、目の前には広く開けた平らな土地が現れます(写真①)。曲輪と呼ばれるその平坦部には建物や柵の跡などが見つかり、山を切り拓いた当時の人々の技術を感じることができます。

登ってきた道を振り返ると茂った木々のあいだから海岸線に沿って並ぶ町が見えます(写真②)ここは当時の城下町であったと考えられています。



家屋の様子を見ると、当時の城下町の特徴である短冊型の地割やカギ型に曲がる道などが残っており、そこからの風景を眺めると脇本城主「安東愛季」の気分を味わうことができます。



内館地区の西端から西側を眺めた時に見える景色は、戦国の世の当時とまったく変わらない絶景です。(写真③)この眺めの良さから脇本城は海上交通の要所としての役割ももっていました。

# 内館地区の遺構



**A 曲輪** くるわ 山を削り平らにした場所、内館地区に多数確認される。



**B 虎口** こぐち



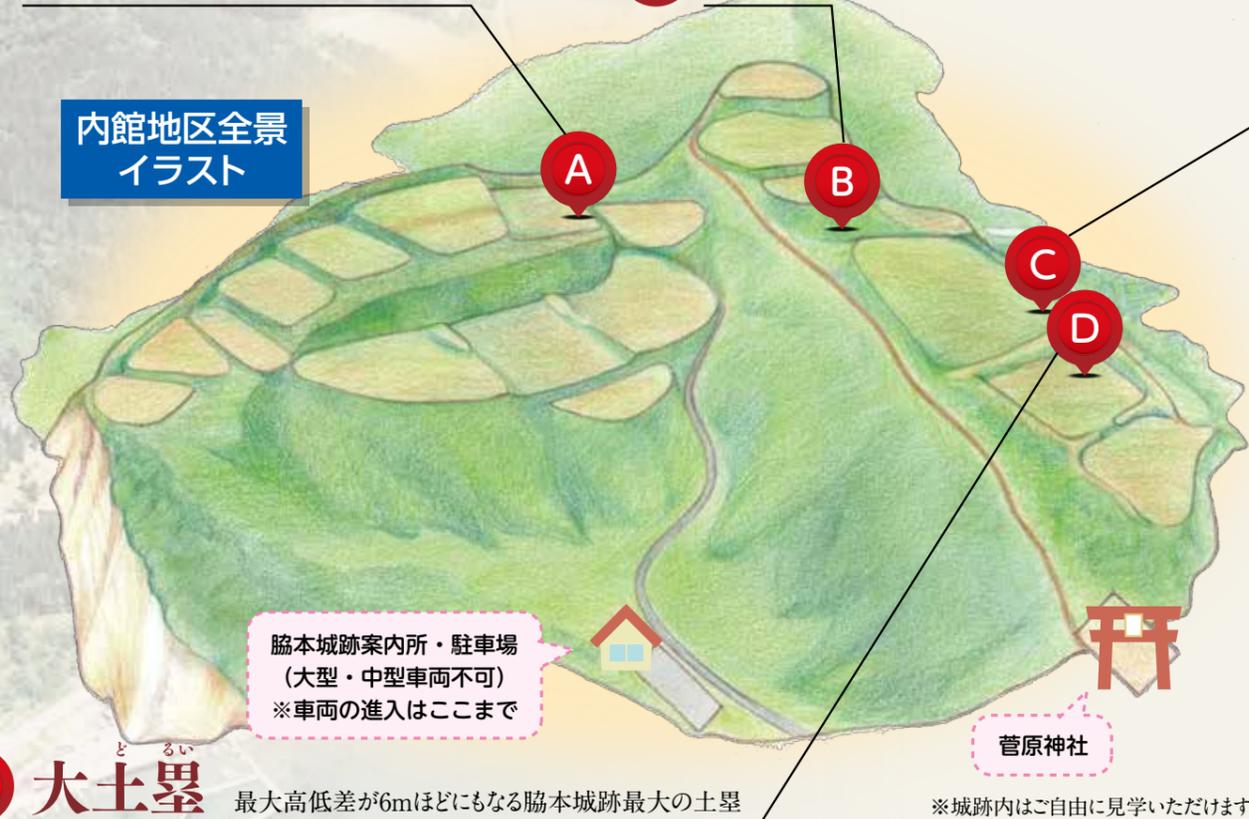
**C 井戸跡** 内館地区には確認されている井戸跡が4つある。

## 金の茶釜伝説

かつて脇本城が攻め込まれた時、当時の城主は貯え持っていた数多くの金銀財宝を家臣に持たせ逃げるように指示したが、「金の茶釜」だけは持ち出さずに井戸の底深くにうずめたと言われる伝説があります。

かつて、この伝説を信じた人は、夜な夜なこの井戸跡を掘り続けたと言われています。

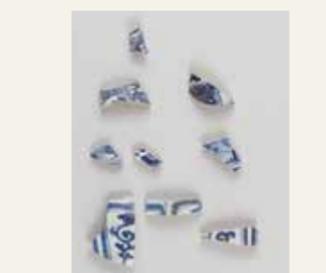
※現在、遺跡範囲内の掘削は法で制限されています。



**D 大土塁** とるい 最大高低差が6mほどにもなる脇本城跡最大の土塁



## 脇本城跡の出土遺物



- 《用語解説》
- 遺構**：過去の建築物や土木工作物等の総称
  - 土塁**：土を積み上げて築いた施設
  - 曲輪**：土地を平らに整地し、城壁や堀・土塁など人工物や自然の崖や川などで仕切った城館内の区画
  - 井戸**：生活用水確保のための施設
  - 虎口**：城郭・陣營の要所にある出入口
  - 空堀**：水のない堀。山城に多く、障害として設けるほか、城兵の通路などにも用いる